

平成 30 年度第 3 回東海市地域公共交通会議 会議録

- 会議の名称 平成 30 年度第 3 回東海市地域公共交通会議
- 開催日時 平成 30 年 12 月 14 日（金）午後 1 時 30 分から午後 3 時まで
- 開催場所 東海市役所 302 会議室（3 階）
- 出席委員 佐治錦三（会長）、渡邊元芳（副会長）、嶋田喜昭（議長）、勝田厚秀、江尾国博、天野朝之、小林裕之、藤田重記、大脇美一、小野偉稔、服部政春、小林治代、多田哲也、大里美栄子、百田勇次、秋山和子、森岡俊一、堀口美喜雄、久野文則、杉本忠久、盛林克浩、富田弘敏、小林睦夫、花田勝重
- 事務局 総務部長、同次長、交通防犯課長、同統括主任、同主任、同主事
- 傍聴者の数 1 人
- 議題及び審議の概要
 - 1 開会のことば
 - 2 会長あいさつ
(会長)

らんらんバスの関係として、12月5日に総利用者数が400万人を突破した。皆様のおかげである。今後も多くの方の足として、よりよい形を目指していきたい。委員の皆様からはそれぞれの立場で、忌憚ない御意見をいただきたいと思う。
 - 3 報告事項
 - (1) 前回の会議録の確認について
 - (2) 循環バスの利用状況等について
事務局による資料 1、資料 2 の説明
(委員)

回数券の利用者が減っているようだが、何か原因は考えられるのか。

(事務局)

75歳以上の高齢者が無料になったことにより、定期的に使っていた方が回数券ではなくパスケースの利用者へ変化したことによるものと思う。

(議長)

9月が台風の影響で利用者が下がり、10月には回復していたが、11月はま

た少し減っているようであるが理由は何かあるか。

(事務局)

明確な理由があるわけではないが、利用者の動向が落ち着いたと考える。

3 報告事項

(3) 平成30年度補助系統別事業評価票（横須賀（A）線）

事務局による資料3の説明

(委員)

今回の調査においては、29年度より利用者数について改善がみられ、ありがたいと思う。ただ、大府駅前から利用される方が一日150人ほどに対して、尾張横須賀駅前から利用される方が1日50人ほどである。尾張横須賀駅から大府市への市を跨ぐ利用が非常に少ない。東海市側は東海市側、大府市側は大府市側で利用する方が多い。今回増えたのも、大府市側が増えている。今後も利用促進について御協力いただきたいと思う。

(議長)

通勤・通学に利用がある、と記載があるが実態はどうか。

(委員)

大府市は、通勤の方が多く利用していただいている。大府市側に関していえば、古くからある町を走っているので大府中心地へ出る大府市民の方が利用してくれる。

(副会長)

大府市で利用者が増えたとのことだが、何か要因はあるのか。

(委員)

長寿医療センターのあたりなどに住宅が増えていることもあり、通勤利用の方が増えているのではないかと思う。

(委員)

大府市側からこの横須賀線に乗ると、立ち寄ってみようかと思える施設が沿線にある。東海市側から乗ると、終点の大府駅が目的になるので、東海市側の沿線に利用できそうな施設がないのだと思う。

3 報告事項

(4) バス停移動に関する書面協議結果について

事務局による資料 4 の説明

4 協議事項

(1) 東海市地域公共交通網形成計画の推進について

事務局より資料 5、6 の説明

(議長)

高齢者大学の 1 回の講義で、らんらんバスについては 2 時間のうちどのぐらいの時間を使ったか。また、どんな質問が出たか。

(事務局)

交通安全や防犯対策の話もしているので、バスだけに限ると平均して 40 分程度である。質問については、無料パスケースの話やダイヤ改正についてがあった。また、乗車したことがあるかないかを聞いたところ、会場の 6 割程度は乗ったことがあるとの回答だった。乗ったことがない方は、行き先や乗り方がわからないので乗れない、とのことだった。

もう少し時間をとれるとよいと感じているため、今後もこういった場を設けることができれば実施していきたい。

(議長)

高齢者はどんなところがわかりづらいと感じているのか意見はあったか。

(事務局)

どのルートに乗るとどこにいけるかがわからないとのことだった。

(委員)

この講座はどういう単位で集まってもらっているのか。自主的なのか。

(事務局)

文化センター所管の事業で、広く参加者の募集をしているものである。

(委員)

機会があれば事業者も呼んでいただけると、安全運行についてのお願いごともできるため、お声かけいただきたい。座学だけでなく、実際に車両を持ち込んでの乗り方教室も実施できる。

(委員)

自分はバスをよく利用するので、気にならないが、高齢者の方はどのルートに乗れば目的地につけるのかがわからない人が多いようである。慣れていない方は

理解しにくいのかなと思う。岐阜駅では案内係の人がいて、目的地を伝えると教えてくれるようになっている。規模が違うので、無理かもしれないが、太田川駅にもいてくれると助かるのではないかな。

(事務局)

太田川駅に限っていえば、バスの停車時間があるので乗務員に聞いていただくという方法もあると考える。また、乗り場には、目的別のルート図の掲示も行っている。

(委員)

観光協会等での案内はできないのかな。

(事務局)

一度、観光協会で何か対応できるか声をかけてみる。

(委員)

利用者促進の事業としてらんらんバスギャラリーの実施しているが、11月の利用数としてはあまり増えていないのでは。

(事務局)

保護者からの問い合わせはあるので、ある程度の効果は見込めているのではないかと考えている。

<議長による承認採決>

4 協議事項

(2) 地域公共交通確保維持改善事業にかかる事業評価について

(委員)

二点ほど確認いただきたいところがある。一点目は国の様式の中で、循環バス南ルートキロ程が系統5と6で異なるのはよいか。二点目は、事業評価結果の反映状況について、国の様式と中部様式への記載の仕方が異なるので、内容を揃えることと、事業評価をどのように事業へ反映するかまでを詳しく記載したほうがよいと思われる。

(事務局)

5と6でキロ程が異なるもの。また、記載の仕方については事務局で内容を検討して補筆させていただく。

(議長)

いつまでに提出か。

(事務局)

1月中旬である。

(議長)

北ルートがフィーダーの補助を得ていないことについて補足はあるか。

(事務局)

知多バス横須賀線が尾張横須賀駅と大府駅間を運行しており、当該路線が2市を跨いでいるため、地域間幹線系統と呼ばれるものとなる。その地域間幹線系統を接続・補助するものがフィーダー系統といわれる。東海市の南ルートが尾張横須賀駅で、中ルートが高横須賀駅で横須賀線に接続している。以前は横須賀線が太田川駅にも乗り入れていたので北ルートも接続していたが、路線見直しにより、太田川駅への乗り入れがなくなったため北ルートの補助金がなくなったものである。

ゆえに、知多バス横須賀線が廃止となると、市への補助もなくなるため、地域間幹線系統をいかに維持するかを、地域の方にも御協力願いたいと思う。

(委員)

なぜ横須賀と太田川を結ぶ路線がなくなったのか。

(委員)

利用者数が少なく、路線をとて維持できない状況であったことと、市の循環バスとの重複路線であった。

(委員)

太田川駅前が以前よりも開発がされて、様々なお店もできたことで魅力的な地域となっている。他市町に住んでいる方も太田川へ行きたいという声を聞く。路線が廃止になったときと、今の状況は少し異なっているのではないか。

(委員)

実際にバスを利用してもらえる方がどれだけいるか、という問題になってくる。皆さんにも、バスの路線を育てていただきたい。バスの路線を、社会的なインフラとして認知していただいて、必要であれば公的な補助をいただいて路線を維持していくというのが正しい道筋ではないかと思う。公共交通会議の中で議論いただくのは重要なことである。状況などによって臨機応変に、ニーズにあった路線

を維持するということが事業者としてもやらねばならないと考える。

(委員)

路線バスの評価について、資料3の補助系統別事業評価票では利用者数が増えており、改善傾向にあるという話であった。資料7では路線バス、特に横須賀A線が減少傾向にある、との記載であるが、さきほどの説明と若干異なるのではないかな。

(事務局)

いただいた御意見をうけて、また検討して修正する。

(議長)

第三者評価委員会はあるのか。

(事務局)

事業評価はしていただくが、第三者評価委員会への出席対象ではない。

(委員)

愛知県は市町村が多いため毎年出席対象となるものではないが、パワーポイントの資料は中部運輸局へ出してもらう様式であるため作成をお願いしている。この資料を活用いただいて、市民などにPRすることも意図している。

<議長による承認採決>

5 その他

(副会長)

国の政策もあり、外国人労働者の受け入れが本格的になる見込みである。外国の方が増える中で、らんらんバスの路線図や時刻表も外国の方に対応できるものが必要になってくるのではないかな。

(事務局)

バスに限らず、外国の方が増えると同様の問題が発生すると思われる。国際交流協会などとも相談するなど、解決策を考えていきたいと思う。

(会長)

4月から観光戦略推進室という組織を設置している。外国の方が今後東海市に来ることも多いただろうということで、市としての戦略を作成してすすめていくところである。費用対効果等も意識し、市の観光ビジョンの中で一定の位置づけをしながら検討していきたいと考えている。

・事務局による次回会議についての案内

6 閉会のことば